令和６年 12 月３日

富良野市議会議長　　渋　谷　正　文　　様

富良野市議会議員　　後　藤　英知夫
外３名

議員の派遣に関する報告書

令和６年第３回定例会において議決された議員の派遣について、下記のとおり行政事例調査を実施したので、その結果を報告します。

記

１．調　査　地　　京都府京丹後市、兵庫県豊岡市

２．日　　程　　10 月 23 日～10 月 25 日　３日間

３．参　加　者　　後　藤　英知夫　・　石　上　孝　雄
家　入　　茂　・　天　日　公　子
坂　口　邦　夫　・　大　栗　民　江

４．調査事項　　・京丹後市未来創成人材育成プロジェクトについて
・深さをもった演劇のまちづくりについて

５．調査内容　　別紙のとおり

＝別　紙＝

―京都府京丹後市―

◎概　要

京丹後市は、京都府の北端に位置し、日本海に突き出た丹後半島の大部分を占め、令和６年 11 月現在の人口は 50,185 人、22,954 世帯、面積は 501.44 平方キロメートルの都市である。日本海沿岸部及び山地部は、山陰海岸国立公園と丹後天橋立大江山国定公園に指定され、鳴き砂やブナ林に代表される豊かな自然を有し、山陰海岸ジオパークとしてユネスコ世界ジオパークに認定されている。伝統的な絹織物である「丹後ちりめん」発祥の地であり、絹織物の生産量は日本一を誇り、四季折々の豊かな自然が育んだブランド松葉ガニ「間人がに」をはじめとする新鮮な魚介類や、京丹後産コシヒカリなどのお米、メロンや桃、梨など、農林水産業も盛んである。古代丹後王国の自然や文化などの魅力を生かし、幸福を中心軸とした心の豊かさを育むための、先端技術の積極的活用と SDGs を原動力とした地方創生を推進している。

◎京丹後市未来創生人材育成プロジェクトについて

京丹後市では、人口減少や少子高齢化が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小がさらに人口減少を加速させる負のスパイラルを断ち切るため、若者のＵ・Ｉターンの拡大を目指し、令和７年までの地域再生計画と併せ、令和３年２月に策定した第２次京丹後市総合計画の中において、４つの重点プロジェクトの１つとして、「未来創生人材育成プロジェクト」を掲げている。

このプロジェクトは、人口減少による若年層の流出が大きな課題となる中で、市内の高校生や若者の積極的な取組を応援するため、交流拠点となる「未来チャレンジ交流センター roots」を開設し、居場所づくりや市外在住者を含め、若者、地域、企業が連携したプロジェクトを創出する仕組みづくりを行っている。この取組において、多様な地域資源（人・物・事）と高校生等をつなぐ橋渡し役のコーディネーターとして、地域おこし協力隊員を市内高校３校に配置し、地域とつながる機会を創出し、学生の意識の変化や新たな気づきを促し、地元への愛着心の醸成へとつなげている。また、小中学校で醸成してきた丹後学や、キャリア教育による郷土への思いを進化させ、地元定着率の向上を図ることなどを目的に、従来からの学校教育の視点に加え、より多角的な視点で取組を行っている。

◎未来チャレンジ交流センターroots（ルーツ）について

交流拠点でありプロジェクトを創出する「未来チャレンジ交流センター roots」は、高校生や若者の自由な発想、オンラインによる意見交換など、未来のまちづくりに向けた取組を応援する拠点として、令和２年 10 月に開設された施設である。運営は、Ｕターンしてきた市民が設立した一般社団法人に委託し、高校で地域おこし協力隊員としてコーディネーター業務に従事した方が、任期終了後に施設内で専門の支援員として、相談業務などに携わっている。施設は市街地の高校に近い場所に立地し、全面ガラス張りで、内部の様子が伺えるお洒落な空間に

は、高校生や若者など訪れた人の「やってみたいこと」が書かれた小さなカードが、所狭しと張られているほか、利用者等から寄贈された多くの本が蔵書されている図書コーナーも設けられている。

開設から２年余りで、延べ 5,268 人もの方が訪れており、企画や実施したプロジェクトの数は実に 120 以上にのぼる。高校生や若者、地域、企業、高校などが連携し、多種多様なプロジェクトを立ち上げており、高校の探求授業のサポートでは、地域の素材を生かした商品開発やフードロス対策の企画なども行っている。とりわけ、「水中考古学プロジェクト」と称される取組は、SNS を活用し専門家の協力を得て、クラウドファンディングにより資金を集め、高校生のローカルアイディアをグローバル協力へと繋げて実現した代表的な事例となっている。

この交流拠点施設は、高校生自らが考案した roots（ルーツ）のロゴとともに、地域住民の協力のもと DIY でリノベーションし、若者の居場所、自分らしさを出せる空間となっており、こうした地域内外の大人が応援する取組や施設のデザインが評価され、令和４年にグッドデザイン賞を受賞している。

◎考　察

本市においても、京丹後市と同様に、高校生や若年層の人口流出が大きな課題となっている。

その解決策として、京丹後市では交流拠点である「未来チャレンジ交流センターroots」を開設し、高校生や若者が自ら考案したプロジェクトを地域の企業や地域の魅力的な人へとつなぎ、自由な発想で未来のまちづくりやチャレンジの実現を目指して、気持ちに寄り添った後押しや伴走を行っている。

この人材育成となるシステムは、高校生や若者にとって、起業への後押しや学校だけでは経験できない貴重な社会参画の機会となっており、居場所や交流場所があることにより、そのまちを好きになり、将来にわたって住み続けたいと思う意識の醸成につながっていることが感じられた。こうした高校生の居場所が限られる本市においても、チャレンジを応援する交流場所を地域企業や住民との共同により設けることは、貴重な人材に対する大きなリターン事業であり、将来の U ターンや関係人口の増加にもつながっていくものと考える。

さらに、高校生と地域の橋渡し役のコーディネーターとして、地域おこし協力隊員を学校に配置する取組は、高校生の新たな気づきや意識の変化など、メンタル面においても十分な配慮がなされており、令和７年度に本市内で統合により新設される高校の魅力向上に向けて、大変参考になる事例である。

また、富良野地域の高校生においては、約 70％が高校卒業前に仕事を決めるタイミングとしており、さらに親からの情報を頼りに進路を決めている現状にあって、進路選択を早い段階で、多種多様な情報収集と交流やアイディアを実社会の中で経験し実現することは、まちの魅力を再認識することにもつながるものと考える。まちの未来を見据え、交流拠点の可能性も含め、十分に参考としたい取組である。

―兵庫県豊岡市―

◎概　要

豊岡市は、兵庫県の北部に位置し、平成 17 年４月１日に兵庫県の北東部に位置する１市５町が合併して誕生し、令和６年 11 月現在の人口は 75,362 人、33,851 世帯、面積は 697.55 平方キロメートルとなっている。日本海に面する海岸部は山陰海岸国立公園、山岳部は氷ノ山後山那岐国定公園に指定され、全国の４大産地の一つである鞄や出石焼などの生産が行われている。農林水産業や観光業なども盛んで、特に観光業では、全国的に有名な城崎温泉をはじめ、西日本屈指の神鍋スキー場、但馬の小京都・出石城下町などを有し、年間 420 万人以上の観光客が訪れる。古くから国の特別天然記念物・コウノトリを保護し、人里で野生復帰を目指す取組を進めながら、命への共感に満ちたまちづくりを進めている。

◎深さをもった演劇のまちづくりについて

まちの将来像「小さな世界都市－Local & Global City－」の実現に向け、若者をターゲットとした人口減少対策を目的に、地方創成総合戦略の 1 つとして、芸術文化による「深さをもった演劇のまちづくり」を掲げている。

これは、社会的・経済的・文化的に豊かな大都市と、貧しくてつまらない地方というイメージに対抗し、地方で暮らす価値を圧倒的に高めるための戦略である。人口規模は小さくてもローカルで固有な文化資源を再発見、活用し、文化芸術を媒介し、世界の人々から尊敬され尊重されるまちを目指している。演劇やダンスなど、舞台芸術を文化資源の中心に据え、令和５年８月に策定した第２期豊岡市地方創生総合戦略では、人口減少対策の新たな視点として、兵庫県公立大学法人が設置する「芸術文化観光専門職大学」との連携が掲げられている。この大学は、令和３年４月に著名な劇作家を学長とし開学した国公立初の演劇・ダンスの実技が本格的に学べる学校（１学年 80 名定員）となっており、今年度の演劇祭には 160 名の学生が参加している。

また、先導的な役割を果たすリーディングプロジェクト「豊岡演劇祭」は、まちづくりと連動した演劇祭として、城崎国際アートセンター（KIAC）や近畿最古の芝居小屋である出石永楽館、江原河畔劇場などを主要会場とし、豊岡市内全域で演劇公演を行い、豊岡市近隣の自治体も会場となるなど、劇場のみならず温泉街、海岸、高原、神社など、まちの至るところが舞台となっている。

昨年開催された 2023 演劇祭には、11 日間で延べ 23,647 名が来訪し、国内外から公式・非公式（フリンジ）合わせて約 90 団体が参加しており、このツーリズム効果としては、平均宿泊数 2.07 泊、観光消費額約 1 億 1,300 万円、経済波及効果は約 1 億 9,100 万円に上っている。

さらに、平成 31 年から始まった「豊岡アートシーズン」では、様々な文化芸術事業を一体的に広報することにより、文化芸術のまち豊岡のイメージを発信し、市の魅力と市内で暮らすことの価値を高めている。世界で活躍する音楽家を毎年招聘し、子供たちに音楽を演奏することなどにより、豊岡市で世界を感じながら暮らしたいと考える若い世代の育成にも取り組んでおり、文化庁の文化芸術創造

拠点形成事業の助成を活用して、令和５年度には 75 事業が開催されるなど、公募プログラムの募集やアウトリーチによる公演も積極的に行われている。

◎城崎国際アートセンター（KIAC）について

城崎温泉街に位置する城崎国際アートセンターは、平成 26 年４月、城崎大会議館をリニューアルオープンした舞台芸術を中心とした国内最大級のアーティスト・イン・レジデンス（滞在型創作活動の支援制度）の拠点施設であり、１つのホール、6 つのスタジオ、22 名まで滞在可能な宿泊設備を有しており、豊岡市の地方創生総合戦略の拠点施設として、文化政策の創造と発信の場となっている。開館以来高い評価を得ており、現在までに 22 の国と地域から 205 組の外国人を含むアーティストを受け入れている。

館内には、滞在した著名なアーティストのサインなどが壁や柱に記されており、500 席あるホールは空間創造を刺激されるほど素晴らしく、試演会、リーディング、ワークショップ、アウトリーチなどの地域交流プログラムの実施により、地域住民が多様な芸術活動に触れられる貴重な機会が設けられている。令和６年度には 17 組のアーティスト（うち海外８組）が滞在制作を予定しており、国際色豊かな創作作品の一部は、豊岡演劇祭の会期中に上演されている。

◎考　察

豊岡市は、人口減少対策の１つの主要政策として、文化芸術による「小さな世界都市」の実現に向け、「深さを持った演劇のまちづくり」を掲げ、文化、観光、経済の好循環による地域の自律的なビジネスの活性化や創出など演劇祭を契機としたまちづくりの推進を行っている。本市の演劇祭は、富良野演劇工場の１か所で数日間の開催日程となっているが、豊岡演劇祭の期間は 11 日間、会場は劇場のほか、温泉街、海岸など自然空間も活用するとともに、近隣の自治体など 11 会場以上に及ぶ。

このことは、日本に例を見ない公演の自主参加も認める、フリンジ型演劇祭を行っていることによるもので、会場となる場所をいくつも巡ることや、観光施設を周遊することにより、演劇ツーリズム効果が創出されている。

観光消費額は約１億円を超え、経済波及効果も大きく、平均宿泊数も通常時の２倍近くとなっており、演劇祭を通じて９月の閑散期の地域経済の活性化や新たな来訪者の開拓、関係人口の創出にもつながっている。また、文化観光推進法の考えに沿った文化観光拠点施設「城崎国際アートセンター（KIAC)」を中核とした文化・観光・経済の好循環は、地域の活性化と国内外からの観光客の来訪を促進することにもつながり、経済効果が大きいものと考える。

本市においては、富良野演劇工場を中核施設としているが、施設の規模や演劇祭の形態も大きく異なることから、小劇場としての利点を生かした「演劇のまち富良野」の地域色ある独自の取組を検討していかなければならない。幸いにも、脚本家・倉本聰氏が主宰した私塾「富良野塾」のノウハウが運営に生かされ、豊岡市と同様に、文化芸術創造都市としての位置づけを有しており、倉本作品を生

かした、今後の「ナイトタイムエコノミー」など、インバウンドを想定する取組に大いに期待するところである。また、豊岡市では、芸術文化観光専門職大学と連携することにより、新たな視点から人口減少対策が取り入れられており、大学誘致を含め、演劇や文化、観光が経済の好循環を生み、まちづくりの一端を担っていく可能性を強く感じたところである。

「小さな世界都市」としての類似点を模索しながら、富良野演劇工場の指定管理者であるふらの演劇工房との間において、創造的な意見交換を行いながら、積極的に調査研究を進められたい。